

つね子さんと兎

野口雨情

青空文庫

ある日、つね子さんが、いつものやうにお庭へ出て、

兎来い 兎来い

赤い草履ぞんぞ買ってやろ

兎来い 兎来い

赤い簪かんざし買ってやろ

兎来い 兎来い

ぴよんこぴよんこはねて来い

と、『兎来いの唄』をうたつて遊んでをりますと、

『今日は、今日は』と云つて一疋の子兎が来ました。

『まあ お前は子兎ね』とつね子さんが云ひますと、

『さうです。わたしは子兎ですよ。あなたのお唄が聞えたので参りました』
と子兎はなつかしさうに云ひました。

『あら、わたしの唄が聞えたの。お前のお家は何処なの』と訊きますと、

『わたしのお家ですか。ほら、お月さまの中にお餅を搗いてゐるでせう。あれはわたしの伯父さんなんです。わたしのお家も矢つぱりお月さまの中なんです。』
『兎来いの唄』
が聞えたので、どうかしてゆきたいと、やつこのことで此処まで参りました。』

『お月さまの中まで唄が聞えたの。』
『そりやアもう、手にとるやうによく聞えますよ。わたしのお友達は皆な真似てうたつてをりますもの。』

『さうなの』と、つね子さんは大へん感心をしまして、赤い鼻緒の草履と赤い花簪とを買つてやりました。子兎は赤い鼻緒の草履をはいて、赤い花簪をさして嬉しさうに、

生れて 初めて

赤い草履ぞんぞはいた

生れて 初めて

赤い簪さした

お月さんの国へ もう帰らずに
ここのお庭の兔にならう。

と、うたひました。つね子さんも、

お月さんの国へ もう帰らずに
ここのお庭の兔におなり

草履ぞんぞ切れたら

また買ってあげよう

赤い簪かんざし

また買つてあげよう

と、お庭中うたつて歩きました。子兎もつね子さんの後について、お庭中うたつて歩きました。

そのうちに、日が暮れて、夕ゆふべのお月さまが東の空からあがつて来ました。

『わたしのお友達が此方こつちを見ながら大きな声でうたつてゐるから御覧なさい』と、子兎がつね子さんに云ひました。つね子さんが耳をすまして聞きますと、

つね子さん ありがとう

赤い草履ぞんぞ ありがとう

つね子さん ありがとう

赤い簪かんざし ありがとう

お月さんの国へ

遊びにおいて

と、お月さまの中で大勢の子兔がうたつてゐる唄が、ほんたうにかすか微に聞えました。

青空文庫情報

底本：「定本 野口雨情 第六卷」 未來社

1986（昭和61）年9月25日第1版第1刷発行

底本の親本：「小学女生」

1921（大正10）年9月

初出：「小学女生」

1921（大正10）年9月

入力：林 幸雄

校正：今井忠夫

2003年11月24日作成

2016年2月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

つね子さんと兎

野口雨情

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>